

9 ホンジュラス共和国

AMD Aホンジュラス支部長

マリオ・アルフレド・サンブラーナ医師(87)



約20年前。「国家存亡の危機」と言われた大災害を国民は決して忘れていません。

1998年10月22日(現地時間)、カリブ海で発生したハリケーン「ミッチ」は、過去最大級の規模(カテゴリー5)に拡大し、ホンジュラスに上陸。死者1万1700人、行方不明者8千人、被災者は193万人にのぼりました。

ここまで被害が大きくなったのは、日本の3分の1程度の小さな国土にハリケーンが9日間もとどまり、平年1年分以上の雨を集中的に降らせたのが原因です。

AMD Aは医師や看護師、調整員の計6人で第1次救援チームを結成、被災から10日後に現地入りし、巡回診療を行いました。日本政府はホンジュラス政府から要請を受け11月13日、自衛隊を初めて海外に派遣しました。

危機克服し恩返したい ハリケーン被害、治安悪化

世界各地から支援チームが訪れましたが、被害がほぼ全土に及んでいたため復旧は進まず、災害から1カ月が過ぎても、あ

ちこちで建物は崩壊したままでした。

11月末に現地を訪れたAMD A第3次派遣チームの男性は「河川敷にあった運動公園はいまだに水に浸かっており、サッカーゴールの上部がのぞいているだけ。不気味な気泡が浮かんで来ており、水面下には一体、何人の遺体が腐乱した状態で放置されているのだろうか」と活動報告書に記しています。

ハリケーンによる損失額は36億ドルと未曾有の規模となり、食糧危機をさらに深刻化させました。国の基盤となる社会インフラも壊滅的なダメージを受けたのです。

一方、2009年には軍事クーデターが起きました。国際社会から支援停止などの動きが出て失業者が急増。13年のGDP(国内総生産)は185億ドルと、鳥取県とほぼ同じ経済規模となりました。

ホンジュラスは、中米諸国で最も貧しい国とされ、世界銀行と国際通貨基金(IM

F)は「重債務貧困国」に指定。日本は581億円の債務免除を行っています。

麻薬組織による犯罪も増え、治安は急激に悪化。国連薬物犯罪事務所(UNODC)によると、12年の殺人事件の発生率は世界で最も高く、人口10万人当たり90・4件起きています。

AMD Aホンジュラス支部は緊急支援の後、排水溝や学校のトイレ建設、不足する薬の補充、学校に行かない若者や受刑者を対象とした援助など14項目にわたるプロジェクトを中長期的に取り組んできました。

ホンジュラスはいま「慢性的危機」と言えるのではないのでしょうか。多くの課題を抱え、国の真価が問われるのはこれからです。

日本をはじめ、世界各国からいただく温かい支援には心から感謝しています。いつの日か恩返しができたらと願っています。



女性医師から診察を受けるハリケーン被災者 1998年11月



ホンジュラス共和国 熱帯性の気候で、面積は11万2000平方キロ、人口808万人。カトリック教徒が大半を占め、公用語はスペイン語。コーヒー、バナナ栽培など農業への依存度が高く、製造や観光など新規産業の育成を目指している。AMD Aホンジュラス支部は1999年、首都テグシガルパに開設。スタッフは6人で全員が医師。